



東小つつしん

—学校・家庭・地域 みんなで育む「東っ子」—

自分の持ち味を大切にする、仲間の持ち味も大切にする

校長 小樋山 寿幸

「あなたの『持ち味』は何ですか？」と尋ねられたら、みなさんはどのようにお答えしますか。「こんなことができる」「こんなことが得意」「～が好き」など、ご自身の長所がまず頭に浮かんでくるのではないのでしょうか？ネガティブな面を答える人は、まずいないのではないのでしょうか。しかし、私は、ネガティブな面にも目を向けることは、自分を肯定する上でとても重要なことだと考えています。なぜなら、「長所もネガティブな面もどちらも、『まるっと』すべてが自分」だからです。ネガティブな面に目を向けないことには自己肯定感を上げることはできません。

さて、金子みすゞさんの詩に、「私と小鳥と鈴と」という作品があります。ご存じの方もいらっしゃることでしょう。

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげて、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私がからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。

出典…「金子みすゞ童謡全集」
(JULA出版局)

「私」と「小鳥」と「鈴」。それぞれに「持ち味」があり、それぞれの「持ち味」を認めていることが伝わります。私は、それぞれの「存在価値」を認めていることに素晴らしさがあるように思います。

子どもたち一人一人には「持ち味」があります。「自分の持ち味は何なのか」。子ども自身が気づかなければ仲間や大人が気づかせていけばいいでしょう。また、ネガティブな面に向き合うことの大切さにも気づかせていきたい。そうして気づいた自分の「持ち味」を大切にするようにしてほしいし、同じように仲間の「持ち味」も大事にしてほしいのです。

現在、「多様性」が大きく取り上げられています。これは、これまで言い続けられてきた「ひとの尊厳」を大切にすることに他なりません。「ひとの尊厳」とは、つまり、一人一人の「持ち味」のことだと思うのです。

これからも、学校の様々な場面で子どもたちへ話してまいります。ぜひ、おうちでも話題の一つとして取り上げてみませんか。